計画の名称	羅臼町鳥獣被害防止計画
対象鳥獣 計画期間 対象地域	エゾシカ、ヒグマ、アザラシ 平成20～22年度 北海道羅臼町

〈地域の位置〉

〈被害の概要〉
- エゾシカ
  酪農地域での牧草への被害に加え、近年は市街地への出没が顕著となり、交通事故も多発
- ヒグマ
  5～10月に町内全域で出没。人身被害の恐れがある状況
- アザラシ
  11～6月頃、羅臼沖に数百頭が来遊。定置網や刺網にかかった水産物や漁具への被害が発生

〈被害額等の現状値と主な被害軽減目標〉

	現状値（平成１９年）	目標値（平成２２年）
ヒグマ	人身事故０件	人身事故０件
エゾシカ	３４０万円	１７０万円
アザラシ	２，２７２万円	２，０００万円

〈被害防止策の課題〉
- 市街地等積極的に捕獲できない区域での猟銃を用いない捕獲技術の開発が必要
- 町内に獣肉の廃棄物処理施設がなく、町外への運搬や処理費がかさむ構造となっており、捕獲団体の処理・利活用体制の構築が急務
- 出没報告があっても追い払いを行えない等人材不足が深刻化

〈今後の取組方針〉
① ヒグマ対策の基盤強化（H20）
- 追い払い人材育成
- 誘引物の一時保管庫の設置

② 猟銃を用いないエゾシカ捕獲の推進（H21～22）
- 麻酔薬を用いた捕獲の推進
- ワナを用いた捕獲の推進

〈具体的な取組の概要〉
- 町職員、(財)知床財団、猟友会等で鳥獣被害対策実施隊を組織し、鳥獣の種類や取組（捕獲方法等）に応じた体制を充実強化
- 生息状況調査を踏まえた捕獲計画の作成、地元住民への普及啓発活動等を推進
- 追払い体制の充実（人材育成、研修等）、ヒグマを誘引する死亡鳥獣保管冷蔵庫の設置等

〈主な被害防止施策の実施体制〉
羅臼町鳥獣被害防止協議会（構成員：羅臼町、羅臼漁協、地区酪農集落、北海道猟友会中標津支部羅臼部会、(財)知床財団、トレジャーファーム）

鳥獣害防止総合対策事業による取組推進（平成20年度）

・狩猟免許の取得　・技術指導者の育成　・ヒグマを誘引する死亡鳥獣（エゾシカ、アザラシ）の保管冷蔵庫購入